

新型コロナウイルス感染症対策特別委員会会議記録

新型コロナウイルス感染症対策特別委員長 平岩 純子

1 日 時

令和3年11月16日（火） 午後1時30分から
午後2時17分まで

2 場 所

第3委員会室

3 出席した委員の氏名

平岩純子、衛藤博昭、吉竹悟、清田哲也、今吉次郎、麻生栄作、木田昇、二ノ宮健治、
原田孝司、馬場林、堤栄三、末宗秀雄

4 欠席した委員の氏名

阿部長夫、太田正美、戸高賢史

5 出席した委員外議員の氏名

な し

6 出席した執行部関係者の職・氏名

な し

7 会議に付した事件の件名

別紙次第のとおり

8 会議の概要及び結果

(1) アンケートの集計結果の検証及び中間報告の方向性について協議した。

9 その他必要な事項

な し

10 担当書記

政策調査課調査広報班	副主幹	矢野順子
政策調査課調査広報班	主任	佐藤千種
政策調査課政策法務班	副主幹	安達佑也
議事課委員会班	副主幹	白岩賢一

新型コロナウイルス感染症対策特別委員会次第

日時：令和3年11月16日（火）13：30～

場所：第3委員会室

1 開 会

2 付託事件について

3 その他

4 閉 会

会議の概要及び結果

平岩委員長 これより新型コロナウイルス感染症対策特別委員会を開催します。

本日は都合により、阿部委員、戸高委員、太田委員が欠席しています。

それでは、本日の委員会は、皆さんに取っていただいたアンケートの集計結果から、中間報告の大まかな方向などについて議論したいと思っています。

まず事務局に、アンケートの集計結果を報告してもらいます。よろしくをお願いします。

〔事務局説明〕

平岩委員長 ありがとうございます。

全部ではなく抜粋ではありますが、ただいまの報告について、御意見は後ほど伺うので、まずこのアンケートについての質疑があればお願いします。

堤委員 例えば2ページの健康面、回答件数が165件で、うちストレスに関するものが63件とありますが、同じような意見で言葉のニュアンスが違うような場合、どう判断していたのかな。全く文章が同じというのは多分あり得ないから、そこら辺はどうしたんですか。

事務局 堤委員のおっしゃるとおり、同じような意見で「ストレスが増えた」とか、「外出自粛でストレスがたまるようになった」という御意見が非常に多かったもので、そういったものは一つにまとめて書いています。

ページ数の関係で今回載せていない部分もありますが、やはり福祉関係の職に就いている方々とか、御自身だけではなく、家族や職員に感染させないために、常に気を張っていることでストレスがたまることが多くなったというような、特徴的な御意見をなるべく載せるように、どの項目も工夫しています。

平岩委員長 そのほかありませんか。よろしいですか。

〔「なし」と言う者あり〕

平岩委員長 それでは、ここからは前もってお願いしていた各自が集めたアンケートの意見の傾向や報告書で取り上げてほしい点などの話を伺いたいと思います。それぞれの議員が、それぞれにアンケートを取ったので、ここはどうしても伝えておきたい、これはとても特徴的なことだというのがあったら、どうぞ誰からでも構わないので、伝えていただきたいと思います。

衛藤副委員長 私がアンケートをお願いしたのが、世代が近い30代、40代が多かったんですが、やっぱり子どもがいる家庭、子育て中の世代が多かったので、子どもに対する影響に言及されている方が非常に多かったのが特徴としてありました。

例えば、行事等がなくなって、外部の方との交流であったり、学校内での子どもたち同士の交流であったり、そういった機会が減ったことに対する心配の声がたくさんありました。

もう一つ、休校期間もあったので、学習の遅れとか、オンラインに代わったことで、いろいろと学校によって対応が若干違うところもあるみたいなので、そこに対する心配の声もありました。

一方、印象に残っているのが、歯科医の方がアンケートに答えてくれましたが、感染者が増えたときに受診控えがかなりあって、第5波のときに患者数が結構減ったと。病院も経営面で非常に苦労されたという話を伺いました。普通の商工業だと補助を受けられますが、歯科医なんかの医療機関は直撃して苦しかったという声が非常に印象的でした。

平岩委員長 ありがとうございます。今日の資料にもその意見が少し出ていましたが、皆さんでもそういうことを聞いたことがあると思うので、どうぞアンケートの中から心に残っていることを伝えてください。

堤委員 中小業者とお会いしてアンケートを書いてもらいました。書いているとおり、やっぱり収入が減少しているというのが一番多いですね。あわせて、それに対する売上げの減少ですから、いろんな支援制度があるけれども、5割売上げが減らないと出ないとか、県でも3割減らないと出ないとか、そういう線引きをしない支援をしてほしいというのがやっぱり業者からは一番大きな声でしたね。

清田委員 副委員長と同じ傾向です。子育ての面で、学校行事、修学旅行や運動会とか、通常であれば当たり前前に経験することができなかったのが非常に親としても不安を感じていると。

あと、中学生、部活動ですね、一番競技力が向上する時期に大会がなかったりとか、練習時間そのものが制限されたりとか、何か喪失感を非常に多く感じていると、子どもの将来が心配であるといった意見がありました。

それと、仕事ですが、佐伯地域で言うとリモートでできる仕事って、ほぼないんですね。その中でも、例えば、土木コンサル業とかは、データの打合せ、すり合わせで済む分は福岡支店と佐伯の本社でリモートでやったけれども、結局、最後の詰めはやっぱりフェース・ツー・フェースで図面とにらめっこしてやった方が効率的であると。リモートでの仕事も限界があるということでした。

それと、教育に戻りますけれども、副委員長が言っていたように、やっぱりITスキルの高い先生がいるかないかで、リモート授業、せっかく配ったタブレットの活用によってかなり温度差があって、ほとんど活用されていない学校も多いということです。

あと、やっぱり子どもの進学とか、本人は分かりませんが、特に保護者は不安を様々な面で感じられているようです。

それから、ワクチンについて言えば、そんなにみんな打って本当に大丈夫なのかという意見もありました。

吉竹委員 私は堤委員と同じようなことす

が、とにかくパーセンテージであげろと言って、基準が3割となったときに、うちは29%だった、28%だったと。ルール違反だから、ごまかすこともできないし。

ただ、それって本当に救う意思があるのだろうか。どうしても政策的には線引きが必要なんだろうけど、その境界にいる人たちが本当に苦しい思いをしたというのがあったので、第6波に備えて、もう1回そこは慎重に考えて、中小、小さいお店とか飲食店ですね、そこを守る気があるんだったら、もう少し緩和の方策が取れないかなと強く感じました。

それともう一つ、竹田市ですが、高校はバス通学が多いんですよね。高校生を持つ保護者、高校生本人にもちよつと話を聞きましたが、バスに乗るのが怖い。本人たちはマスクとか、当然していますが、バスに乗ることが怖くて、結局、親が送っていくと。バスは定期、回数券、方法がいろいろありますが、結局地域交通の要であるバスの売上げが下がったと。バス会社からはそういう悲鳴も出ていますね。県も地域交通のことは考えていると思いますが、そういうこともちよつと考えられないかなという意見がありました。

平岩委員長 ありがとうございます。

前年度の売上げに対しての3割というのが、私もどんなに計算しても29.7%にしかならないからという話があって、何回計算してもそうなんだと。これって、お客さんが来てくれているから、支えられているという証拠なんだけれども、でも苦しいんだというのが本当にずっと続いていたので、線引きをしなければならぬ状況は確かにあるんですが、その苦しさは本当にみんな共通してあったと思います。ほかにありますか。

原田委員 私、返す言葉がなかったのが、別府でタクシー会社の役員をされている方から持続化給付金が、個人タクシーは1人で100万円出ているけど、うちは法人で従業員が150人いて、200万円なんですと。事業規模が合っていないから、支援としてどうな

のかという話が出ました。

二ノ宮委員 できるだけ全職業の人に聞こうと、医師も3名に持っていったんですが、最後まで忙しくて、大変だなという現場を見ました。特に医療関係、看護師だと思いますが、自分の職場でコロナが発生して、家族全体が差別を受けたということで、これはだんだん後になるほど落ち着いてきましたが、特に初めの頃は差別を受けて大変だったという話がありました。

もう一つが、放課後児童クラブとか、どうしても最終的な判断で、保健所の判断を仰がなければならないのに、保健所の職員が、現場のことを分かっていない。もう一刻を争うのに、結論が出るまでに時間がかかった。やはり保健所の負担があまりにも大き過ぎて、さらに言えば、どうしても保健所を通さなければならない、判断を仰がなければならないことが多かったので、その辺は次に向けて、やはり気を付けていかなければならないんじゃないかと思いました。

平岩委員長 ありがとうございます。

保健所も絡んで、そういう事象があったことを書き留めておきたいと思います。

そのほかありますか。

木田委員 同じような意見になるかもしれませんが、私は理美容とか飲食の関係で、支援金に対する不信感、不公平感の声がやっぱり一番多かったかなと思います。

髪の毛は必ず伸びるので、お店に来るとは思うんですが、そのスパンを延ばす、または、カラーリングのスパンを延ばすとかで、理美容の方もやっぱりコロナの影響を受けています。だけど、それがなかなか3割という減少まではいかない。

ただ、同じ業種の中で、あのお店は支援金をもらっているとか、ちょっと疑心暗鬼になっているところがあるのかなと。それは飲食の方も一緒に、時短営業のときなんか、周りから監視されているみたいだったと。あそこは夜営業しているのにおかしいとか指摘され

て、そして、周りから県に通報があつて、時短協力金の申請のときに、ちゃんと店を閉めているんですかと聞かれる。地元でそういう問合せをされているのではないかと、不信感や疑心暗鬼の状態で皆さん過ごされていたと感じました。

あと、時短協力金のことだと思いますが、固定費の影響というのは売上げ以上に地域差があるのに、なぜ一律に2万5千円なのと。大分市とその他の市町村じゃ、全然固定費も違うのに、そういう状況に応じた支援の在り方ってできないの。国の枠組みがあつて、私もどうしていくのがいいと、なかなか返答することができませんでしたが、支援の在り方に対する不公平感をこういう場合、やっぱりこのようななりわいをされている方からは非常に多く伺ったと思います。

今吉委員 さきほど副委員長が言いましたけど、医療関係の中で、感染症に対応していない病院は、感染の疑いがある患者が来たときに、検査体制がなく、いつも保健所にお願いすることになります。そういう感染症に対応していない病院でも、検査体制を充実させてほしいという意見もありました。

馬場委員 私も教育現場に伺って話を聞きましたが、やはり、オンラインで授業を始めるときに、家庭の状況もあるし、ICTの支援員も含めて、日頃からもっと支援をしてもらいたいという声があったのと、学校でコロナが出たときに、差別的な部分が出てきているあと、その辺ですごく気を遣っていたと感じました。

麻生委員 アンケートの部分については、そこに書いておりましたが、今回、陽性確認をされた方が大分県全体で8千人を超えています。死亡が84人で、残りが退院の方。

例えば、大分市で言うと、その約半分近い4,300人を超える方が感染し、42人の方がお亡くなりになられています。ピーク時は、毎日知り合いから感染したとか、宿泊療養施設に入れないとか、あるいは家族が学校

に行くのについてどうだとか、支援金だとか、さきほどの理美容に関しても、お客さんが感染確認されたけれども、うちに何日か前に来ていたとか、ありとあらゆる相談が入って、執行部にスピーディーに対応してもらいました。今回、中間報告を取りまとめるにあたって必要なことは、お亡くなりになられた84人の方の御家族の皆さんがどうだったのか。あるいは実際に陽性になられた方、私も2桁以上、実際に直接相談があって、どう対処するかとか、あるいは濃厚接触者、あるいは職場の方、ありとあらゆる方を数えると、3桁を超える方々からいろんな声が寄せられました。その方々がおっしゃるには、陽性が確認されて、退院するとなったとき、その後の生活について、説明も情報開示もなく、よく分からないまま、何となく今があるということ、これでは次の波が来たときにいかされるのかという問題指摘が出ているのは事実です。実際に陽性になられた方々、あるいはその濃厚接触者の方々、御家族の方々、職場、学校、そういったところについての意見をもうちょっとヒアリングしてまとめていく必要があるのかなど、今回のこのアンケートを皆さんにお願いしながら痛感しましたが、何分、実際になった方にまだ直後に、これを頼むのは、なかなか言い切れなかったのが本音です。

その辺を何らかの形で、やっぱり実際に陽性になられた方々ほど当事者意識を持って、問題認識を持たれている方はいないので、そういった方々向けに何らかのアンケート調査ができると最も改善策に近づけるのではないかなと思っているので、そのことを申し上げておきたいと思います。

平岩委員長 ありがとうございます。

そのほかありませんか。よろしいですか。

私も障がいを持っている方にお一人お聞きしましたが、そこは息子さんがデイサービスに通っているけれども、突然施設から文書で来ないでくれと言われた。感染の多い大分市だったからだと思ってくれるけれども、その後、全く

何の連絡もないまま、よその施設では優先的にワクチン接種しているところもあったけれど、うちは何もなかったのが、とても不安だったと言われました。

それから、学校教育について、個別の事象もいっぱいありますが、子どもたちの体力が落ちて、特に1年生は全くいろんなことを経験しないまま1年、2年になっていって、もうよたよたして歩いているのを、登校できるようになってから、近所の人たちがとても不安げに見ているというのも特徴的なことだなと思いました。子どもたちの心と体の我慢がもう限界に来ていたんだなど、それもどこかに入れ込みたいと思います。

今、個別の事案について御意見をいただきましたが、アンケート全体に関する御意見があればお願いします。このアンケートを御覧になって、全体的に御意見をお持ちの方はどうぞお伝えください。

麻生委員 さきほど来、アンケートでも出ているかと思いますが、助成金等々に関して、同じ業種、業界、その中で線引きの話もありましたが、組合加盟店とそうじゃないところとか、ありとあらゆるところで、あの店には出てるけども、我々の方が苦しいのに、もらっていないという話で、双方が突つき合いの、足の引っ張り合いと言うか、そういう分断が正しく起こっています。

お互いに助け合って、いかに支え合っていくかが求められている中で、逆の方向が今出ていることが危惧される。

こういった部分について、情報提供の在りよう、開示の在りよう含めて、分断が起こることがないように、行政に対して県議会としてもしっかりと声を上げていく必要があるということ、このアンケートも通じて、個別の項目の中から、特にそういったことを感じています。我々のところにも、あれはおかしいんじゃないかとかいう声が山ほど届いているので、むしろ、そこで少し寛容な気持ちで、いかに支え合っていけるか、そういった問題

点や論点を整理した上で声を上げていく必要があるのではないかと痛感しています。

平岩委員長 ありがとうございます。

そのほかありませんか。

今日は3人の委員が来ていないので、またそれぞれの意見を持っているかと思いますが、では、アンケートに関しても皆さんがそれぞれに感じてきたことについても一応この辺で区切りとしてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

平岩委員長 ありがとうございます。

ただいまの議論を踏まえた上で、過去に行った参考人招致の内容も加え、副委員長と事務局と素案を作っていくしたいと思います。作成にしばらく時間がかかると思うので、その時間をいただいて、次回の委員会は年明けとしたいと思いますが、それで了承していただけるでしょうか。

末宗委員 これでもう中間報告の素案を作るわけですね。（「はい。」と言う者あり）

テレビとかで見ていると、第6波が来るか来ないかわからないじゃない。それを見極めてから素案を作るなら意味が分かるけど、それなしで素案ができるのかな、本当に。

衛藤副委員長 最初に進め始めたときから、末宗委員がおっしゃったことは議論になっていたじゃないですか。第5波の収束、第6波が来て、次、第7波もどうなるかわからない。一旦中間報告を3月にめどとして出すと決まっている中で、じゃ、どうしていくかとなると、第6波含みでやるのはなかなか難しいんですね。（「そうかね。」と言う者あり）

だから、そういう制限が多い中で、こういう形でやらせていただけないでしょうかというのが当初、委員会としては合意をいただいているので、そこはぜひ御理解をいただければと思うんですけども。

末宗委員 年末から1月の初めで分かるんじゃないかという気もするんだけどね。じゃないとする意味が、それによって全然中身が違うじゃない。

衛藤副委員長 じゃ、折り込めるところは可

能な限り状況も反映すると。

平岩委員長 貴重な御意見をいただきました。第6波を見据えつつ、第5波までの間で何が起こったのか、何をまとめておかなければいけないのか、何をとどめておかなければいけないのかも事実だと思うので、今年はアンケートを取ることによって、より県民の皆さんの御意見をお伺いしていこうという姿勢できましたので、このアンケートのまとめと、参考人招致のことと一緒に織り交ぜていながら、中間報告の素案を作らせていただければと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

平岩委員長 では、年明けにまた時間をいただきたいと思うので、日程は決まり次第、またお知らせします。

最後に、今日配ったアンケートの集計結果ですが、今日の委員会限りのものとさせていただきたいと思います。また、今はコロナが落ち着いていますが、いつ何どき何が起こるか分からないという不安も抱えているので、またアンテナを高くしながら、何かのときはまた集まりたいとも思っています。

それでは、ほかに何かありますか。

末宗委員 ちょっと1点、僕はコロナが始まったときに、県庁に来て、食事を頼むのに、いつもあれもなくなっている、これもなくなっていると廃業が結構あるんだよね。アンケートにもそこら辺りが余り出ていないし、執行部も把握しているのか、していないのか分からないけど、なかなか表に出ていない。日常の食事一つでこれだけ困るのに、いまだに一つも出ていない。だから、コロナが終わって、晴れて日常に戻ったときに、どのくらいの方が廃業しているのか、その辺りの見解をあまり議論していないので、いつか議論する場があったらお願いしたいと思って。

平岩委員長 貴重な御意見ありがとうございます。ただ、私の知り合いの飲食店もコロナだからやめたと思われたくないと思死に踏ん張って頑張っているところもたくさんあるので、みんなぎりぎりの状態で苦労している

んだと思います。

新型コロナウイルス感染症対策特別委員会はあらゆる分野のことを通じてやっているの
で、またそれぞれの常任委員会でもお話しさ
れると思いますが、取りあえず今回は参考人
招致とアンケートを中心に中間報告をまとめ
ていきたいと思います。

では、皆さん、今日は終わりにしてよろし
いでしょうか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

平岩委員長 どうもありがとうございました。